

科目名 (Eng)		非言語コミュニケーション(Nonverbal Communication)						
担当教員		松江 俊一						
対象学年等	学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目
	コミュニケーション情報 学科	4	通年	必修	2	(60)	専門	C
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応：(D-2)．(D-3)． 修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：6)．							
授業の概要と方針		非言語コミュニケーションの基本要素を学びながら人間関係の諸相を概観する。 組織心理学を基本として、個人、集団、組織の関係を多方面から学習する。						
到達目標		①心理学の基礎を理解し、円滑な人間関係を図る能力を身につけることができる。 ②自己分析及びプレゼンテーションの基礎を習得する。 ③個人と組織の関係についての知識を習得する。 ④マクロ要因と組織行動についての知識を習得する。						
授業計画								
	週	授業項目	理解すべき内容				事前学習	
前期	1	イントロダクション	九つの非言語メディア、高・低コンテクスト文化				翌週用の配布物を事前に精読すること。 課題発表に向けて十分な練習を行うこと。	
	2	非言語メディア1	動作と表情、視線、インプリシット効果					
	3	非言語メディア2	周辺言語、沈黙、声調と性格の関連性					
	4	非言語メディア3	時間・空間・距離・色彩、縄張と間合い					
	5	非言語メディア4	欲求のコントロール、エトス、ペルソナ					
	6	自己表現技法1	フェアネス効果、セイリエンス効果					
	7	自己表現技法2	常識と良識、マナー					
	8	自己表現技法3	うそと偏見、コンプレックス					
	9	自己実現1	絶対と相対、客観と主観、思い込み					
	10	自己実現2	外的適応と内的適応、アサーション					
	11	自己実現3	ネットワークアイデンティティ					
	12	課題発表1	相互評価1					
	13	課題発表2	相互評価2					
	14	課題発表3	相互評価3					
	後期	15	前期学習したことの総括	前期期末試験解答用紙の返却と解説				
16		対人認知	印象形成、対人認知における歪みと個人差					
17		社会的推論	帰属、推論のエラーとバイアス					
18		態度と感情	説得的コミュニケーション					
19		自己認知	自尊感情、セルフディスクレパンシー理論					
20		自己と動機づけ	動機づけを生み出す自己					
21		対人行動	自己開示、援助行動、攻撃					
22		人間関係	関係の成立、発展、維持、崩壊					
23		集団と個人	集団ダイナミクス、ジレンマ、集団間差別					
24		健康と幸福	幸福と不幸、病気と偏見					
25		文化と人間	文化的自己観、集団主義と個人主義					
26		課題発表4	相互評価4					
27		課題発表5	相互評価5					
28		課題発表6	相互評価6					
29		総合演習	後期の総まとめ					
30		後期学習したことの総括	後期期末試験解答用紙の返却と解説					
試験について		中間試験は実施しない。期末試験は50分の試験を実施する。						
評価方法		定期試験50%、課題・発表50%で評価する。						
教科書		『プレゼンに勝つ、「魅せ方」の技術』佐藤綾子著、ダイヤモンド社、及び配布資料						
参考書		『非言語コミュニケーション』マジョリー・ヴァーカス著、新潮社『アサーショントレーニング』平木典子著、金子書房 他						
関連科目		経営入門						
履修上の注意		講義メモをしっかりとること。自己と照らし合わせて考えること。 日常の経済活動における個人、集団、組織に関心をもって欲しい。						